

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

(1) 収容定員を変更する組織の概要	1
(2) 人材需要の社会的な動向等	2
(3) 学生確保の見通し	2
(4) 収容定員を変更する組織の定員設定の理由	4

(1) 収容定員を変更する組織の概要

①組織の概要

収容定員を変更する組織	入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
公衆衛生学研究科 公衆衛生学専攻専門職学位課程	30	60	東京都中央区築地3丁目6番
公衆衛生学研究科 公衆衛生学専攻博士後期課程	5	15	東京都中央区築地3丁目6番

②組織の特色

本専攻は、「医療・保健分野における高度な専門知識の修得および国内外の諸問題をグローバルスタンダードに照らし合わせて解決する能力の育成により、社会における人間の健康と幸福の保持・増進に寄与する公衆衛生分野の高度専門職業人を養成することを目的とする」研究科にあって、専門職学位課程では「広い視野に立って精深な学識を授け、公衆衛生上の諸課題に対し、科学的根拠に基づく高度の実践能力を要する専門職業人の養成および、公衆衛生教育に携わる者等に必要な高度の能力を養う」ため、多様な国籍・背景を持つ教員によるコンピテンシーに基づいた教育を提供している。また、博士後期課程では「公衆衛生分野の教育を支える教員の養成ならびに新たに生じる公衆衛生的課題を科学的に分析・評価し、その結果を実践に役立てる高度な研究能力を有する人材」を育成するため、公衆衛生分野の高度な授業科目と博士論文を組み合わせ、グローバルスタンダードに沿ったカリキュラムを提供している。

本専攻では、本学の使命に則り、相互尊重の雰囲気を促進し、人間の健康を改善することに強い使命感を持つ多種多様な経歴を持つ人材を受け入れており、国際通用性のある高度専門職業人育成の環境を整えるため、英語のみで学位を取得できる学修環境を提供して、国際性豊かな学生集団を維持している。また、社会人学生が受講しやすいようにオンライン授

業やオンデマンド授業を活用しつつ、講義やケーススタディ、インターンシップなどを組み合わせた体系的な教育課程を編成している。これらの特色により、令和6（2024）年度には専門職学位課程 67 名中 57 名（85%）、博士後期課程 14 名中 10 名（71%）が在学中も勤務を続けている。

（2）人材需要の社会的な動向等

新型コロナウイルス感染症によるパンデミックを経験したポストコロナ時代において、公衆衛生人材の需要がいよいよ高まっていることは論を待たない。令和4（2022）年5月25日に首相官邸健康・医療戦略推進本部が決定した「グローバルヘルス戦略」において、「公衆衛生危機に対しても十分機能する、より強靱、公平かつ持続可能なUHC（Universal Health Coverage）を実現していく必要」が述べられ、この実現のための重要課題の一つとして「グローバルヘルス人材の育成」が挙げられている。

近年注目されているプラネタリーヘルスに代表されるように、健康に関わる諸問題は世界規模、地球規模となって顕在化し、その内容もますます複雑化している。これらを解決に導くためには、科学的根拠に基づくアプローチ、プロモーションの企画管理、政策・施策への造詣、分野領域を超えた取り組み、リーダーシップ、コミュニケーションスキル、そして複雑に入り組む要素を解きほぐし全体を俯瞰するシステム思考といったコンピテンシーが必要不可欠である。

本専攻のカリキュラムは、これらのコンピテンシーを国際社会で発揮する人材を養成するものであり、グローバルヘルスのみならず、医療保健に関わる分野すべてにおいて要請される教育指導を提供している。

令和5（2023）年に実施した1年コースおよび2年コース修了者を対象とするアンケートでは、受講後の効果として、回答者22名中、賃金が増加したとの回答が5名、より良い条件で転職・再就職できるとの回答が8名、社内外の評価が高まるとの回答が6名あった（延べ数）。社会人学生を積極的に受け入れる本専攻において、勤務状況の向上を示すアンケート結果は、本専攻が養成する人材の需要を示していると言える。

（3）学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取り組みと見込まれる効果

専門職学位課程においては、表1-1 および表1-2 に示す通り、過去5年間のうち現行の入学定員を充たさなかった年は令和4（2022）年度のみであり、その他は30名を超えるかそれに近い入学者を受け入れている。また、収容定員は完成年度以降、常に充足率100%を超えており、定員変更後の60名を基準としても、ほとんどの年度で100%を超える在籍数である。

博士後期課程入学者数は、年度により増減の幅が見られるものの、完成年度以降は収容定員の充足率は常に100%を超えて年々増加しており、令和6（2024）年度では180%を surpass

状況である（表 2-1、表 2-2）。

本専攻入学定員充足率および収容定員充足率の実績を維持するため、以前より取り組んでいる入学検討者に向けた説明会を以下の通り実施していく。

1. オープンキャンパス：対面イベントとオンライン同時配信のハイブリッド方式により年 2 回実施
2. ミニオープンキャンパス：教員によるプレゼンテーションと質疑応答を行うオンライン説明会を日本語回と英語回、それぞれ年 3 回実施
3. オンライン個別相談（Meet the Faculty）：30 分程度の教員との個別面談
4. オンライン個別相談（Administrative Inquiries）：30 分程度の職員との個別相談

さらに、専門職学位課程では、令和 7（2025）年度入学から春季入学に加えて秋季入学者の募集を開始し、海外の大学を卒業または修了して進学する者や、国内で勤務しており年度の切り替わる 4 月の入学が難しい者などに対する間口を広げていく。

博士後期課程については、これまでの入学者のうち 63%が本大学院専門職学位課程修了者であり、また 17%が文部科学省国費外国人留学生である（うち 1 名が重複）。専門職学位課程学生に対する入学時アンケート調査において、修了後の希望進路として博士後期課程進学と回答する学生が、この 4 年間では毎年平均 3 名前後おり（令和 3（2021）年度 3 名、令和 4（2022）年度 2 名、令和 5（2023）年度 4 名、令和 6（2024）年度 4 名）、今後も、これまでと同程度の内部進学者数を見込むことができる。また、令和 5（2023）年度から学際健康科学分野に、令和 6（2024）年度から国際保健学分野に論文指導教員が配置され、より幅広い分野で学生を受け入れる体制が整えられた。

中長期的には、アジア太平洋地域からの留学生受け入れ増を目指しており、本大学院のプレゼンスを高めるために令和 6（2024）年度にはアジア太平洋公衆衛生学術連合に加入し、また、米国公衆衛生教育協議会の認証評価を得るための受審申請手続きを令和 5（2023）年度に開始した。

以上の取り組みにより、今後も安定して現在と同等の入学者数を確保することができる見通しである。

②競合校の状況分析

本専攻と同じく公衆衛生学専門職学位課程を提供する都内の私立大学大学院として、帝京大学大学院公衆衛生学研究科の入学者受け入れ状況を表 3-1、3-2 に示す。帝京大学では令和 4（2022）年度に専門職学位課程の定員増を行っており、その前後で入学者数に大きな変動は認められない。博士後期課程についても、各年度で変動はあるものの、おおよそ安定して入学者を受け入れており、今後急激な変動がある兆候は見受けられず、同様の状況が継

続されることが想定できる。

上記の入学者受け入れ状況に加え、本専攻では、英語を教授言語とする学位課程や、常勤職を続けながらの修学または遠隔地からの修学を容易にするオンライン双方向授業の提供を引き続き行っていくことから、都内競合校の存在に関わらず、増員した収容定員を充足できると判断している。

(4) 収容定員を変更する組織の定員設定の理由

上述の通り、専門職学位課程、博士後期課程のいずれにおいても、変更後の収容定員数は現在の収容定員充足率を緩和しつつも 100%を下回らない定員設定であり、開設から現在までの入学者数および在学者数の推移、また学生確保の見通しから、定員充足が十分可能な適切な人数であると言える。

表 1-1 専門職学位課程入学定員充足状況

入学 年度	出願者数			合格者数			入学者数			入学定員 充足率
	日本人	外国人	合計	日本人	外国人	合計	日本人	外国人	合計	
2019	31	7	38	29	7	36	28	4	32	128%
2020	18	8	26	18	8	26	17	5	22	88%
2021	31	6	37	28	6	34	28	5	33	132%
2022	32	13	45	29	10	39	28	7	35	140%
2023	30	6	36	29	6	35	29	5	34	136%
2024	23	9	32	23	7	30	22	6	28	112%

表 1-2 専門職学位課程収容定員充足状況

年度	在籍学生数	収容定員充足率
2019	62	124%
2020	60	120%
2021	58	116%
2022	72	144%
2023	69	138%
2024	67	134%

表 2-1 博士後期課程入学定員充足状況

入学 年度	出願者数			合格者数			入学者数			入学定員 充足率
	日本人	外国人	合計	日本人	外国人	合計	日本人	外国人	合計	
2019	2	0	2	1	0	1	1	0	1	33%
2020	2	4	6	2	4	6	2	4	6	200%
2021	4	1	5	4	0	4	4	0	4	133%
2022	2	1	3	2	0	2	2	0	2	67%
2023	3	3	6	3	3	6	3	3	6	200%
2024	1	6	7	1	5	6	1	4	5	167%

表 2-2 博士後期課程収容定員充足状況

年度	在籍学生数	収容定員充足率
2019	1	(完成年度前)
2020	7	(完成年度前)
2021	10	111%
2022	11	122%
2023	14	156%
2024	17	189%

表 3-1 帝京大学大学院公衆衛生学研究科専門職学位課程入学者数推移

入学年度	出願者数			合格者数			入学者数			定員	入学定員充足率
	2年コース	1年コース	合計	2年コース	1年コース	合計	2年コース	1年コース	合計		
2019	28	14	42	19	12	31	17	12	29	20	145%
2020	27	16	43	18	13	31	17	13	30	20	150%
2021	31	12	43	24	11	35	24	11	35	20	175%
2022	19	14	33	16	14	30	16	13	29	30	97%
2023	27	5	32	26	5	31	22	5	27	30	90%

表 3-3 帝京大学大学院公衆衛生学研究科博士後期課程入学者数推移

入学年度	志願者数	合格者数	入学者数	入学定員	定員充足率
2019	10	9	8	6	133%
2020	10	9	9	6	150%
2021	8	7	7	6	117%
2022	4	3	3	6	50%
2023	5	5	5	6	83%